７．陸産貝類

１　石川県の陸産貝類相

軟体動物マキガイ綱は、陸産種と水産種を含み、また陸域と水域の境界線である水際を主な生息場所とする種もいる。ここでは、通常は水域から離れて陸上を主な生息環境とする種や、水際に生息するもので主に水面より高い位置に生息する種を陸産貝類とした。水際に生息する種の中には海浜性の種や汽水域潮上帯の種も含まれる。

論文や調査報告書における記載に基づくと、これまでに石川県内において生息が確認されている陸産貝類は110種程度である。この中には採集時期が明らかでないものや再検討が必要なものもいくつか含まれており、記載された全ての種が現在の石川県に生息しているとはいえない。一方、筆者らは最近の比較的短期間の調査で、数種の県内未記載種を確認している。まだ生息が確認されていない多くの陸産貝類が石川県には存在するものと考えられ、おそらく100種を超える陸産貝類が生息しているであろう。

原生自然を残す山岳と植生の豊かな丘陵、平野部の湿地や潟、岩礁海岸や内湾を伴う長い海岸線および島嶼など、石川県には多様な陸産貝類の生息環境が存在しており、それを反映して深山に生息するクロイワマイマイやミヤマヒダリマキマイマイなどの大型種やキセルガイ類、丘陵地に多産するノトマイマイやベッコウマイマイ科、ニッポンマイマイ科の中～小型種、人工林や広葉樹林に広くみられるケシガイ類やゴマガイ類などの微小種、低湿地にみられるナガオカモノアラガイやヒメオカモノアラガイ、海岸線に分布するサツマクリイロカワザンショウ類やヘソカドガイなど、多様な種が確認される。

能登における構成種の特徴は、海浜性貝類が豊富であること、海岸の照葉樹林に稀種を伴う樹林性から半地中性の陸産貝類相がみられること、点在するブナ原生林において山地性の種が特異的にみられることが挙げられる。一方、加賀では、里地や低山に普遍的にみられる種群が多いことに加え、白山山系を背景とした山地性種群が豊富であることが挙げられる。

石川県における固有種としては、舳倉島のみにみられるヘグラマイマイと、白山の高度 2,350～2,400mで確認されているハクサンケマイマイが挙げられる。

２　選定にあたって

石川県における陸・淡水産貝類の研究は多くの都道府県と比較して遅れている。例えば2002年にまとめられた環境省の生物多様性調査の陸産貝類・淡水産貝類調査において、石川県から収集された生息情報は陸・淡水産貝類あわせて354件で、全国平均の約9%、27都道府県中26番目の低さとなっている。ちなみに県境を接する福井県は4,861件、富山県は447件、岐阜県は4,688件となっており、地域的に陸・淡水産貝類が少ないものではなく、情報が不足していることがわかる。

石川県のリッドリストをまとめるにあたっては、これまでの情報の蓄積が不足している状況の中で、既存の情報収集とともに、筆者らにより実施された現地調査により情報を補った。調査により、これまで石川県内で未記載のものも確認され、石川県における陸産貝類の生息状況の現状を大まかに知ることができた。その結果、2000年に刊行された「いしかわレッドデータブック〈動物編〉2000」においては、陸・淡水産貝類としては、ヘグラマイマイ一種のみが選定されただけであったが、今回の改訂においては、陸産貝類と淡水産貝類はそれぞれ独立の分類群として扱い、陸貝においてはヘグラマイマイを含む38種を選定した。

ところで陸産貝類や淡水産貝類といったカテゴリーは、生息場所に基づいた便宜的な分類であり、必ずしも系統分類学的な観点から分けられるものではない。また、水際を住みかとする貝類については陸生と水生との区別が困難なものもあり、都道府県のレッドリストにおいてもどちらに扱うかは、種によってまちまちである。今回は、概ね2002年の環境省生物多様性調査の陸産貝類・淡水産貝類調査の分類に従って、陸産貝類と淡水産貝類を振り分けている。ただし、一部例外もあり、選定種のリストを確認する上では、淡水産貝類の章も参照いただきたい。

選定にあたっては、筆者らにおいて近年採集された種を中心に扱い、補足的に文献による記載を参照し

た。文献により記載事項が不十分なものや、文献中に採集場所等の十分な裏付けがないものは除外した。また、文献の著者への問い合わせや情報収集が不十分なことから、選定において参照できなかった情報があるものと思われる。次回の改訂においては、詳細な情報の収集と精査が求められる。

現地調査における知見や既存情報が十分でないことから、生息がきわめて限定されると予想される種においても、準絶滅危惧や情報不足とした種もあり、今後の情報の集積により選定ランクの見直しを図らなければならない種もあるものと思われる。

3　陸産貝類選定種とその概要

今回の選定種の一覧は表の通りとなっている。表の和名と並び順、また本文中の学名は、概ね環境省の日本産野生生物目録（1998）に従っている。

選定された 37 種のうち絶滅危惧Ⅰ類には、クビキレガイモドキを選定した。本種は、石川県の他には青森県と北海道のみに生息が知られる種である。石川県においては 1969 年以来、確認情報がなかったが、今回筆者らにより七尾南湾における生息が確認された。海岸の特殊な環境に生息し、岩礁の崖となっている場所を除いて、ほとんどの海岸に護岸が施されている七尾南湾において、生息環境はきわめて限られており、石川県においては、もっとも絶滅が危惧される海浜性貝類である。

絶滅危惧Ⅱ類には、海浜性の貝類から 2 種、山地性の種より 5 種を選定した。ヤマトクビキレガイ、オオウスイロヘソカドガイとも岩礁性海岸の飛沫帯に生息する種であるが、それぞれ生息場所が限られており、また多産はしない。海岸の護岸工事やその他の開発によって容易に消滅してしまう種である。ココロマイマイ、オオミケマイマイは丘陵地から山岳に生息する種であり、生息分布は比較的広いが産地において多産することはない。また開発が進んだ場所においては確認されない。環境変化には脆弱な種であると考えられる。トノサマギセル、ハクサンマイマイ、ミヤマヒダリマキマイマイは山地から奥山に生息する種であり、いずれも稀種である。詳細な生息状況は不明であるが、生息分布が狭い可能性があり、一つの生息地が消滅すると種全体への影響が大きいものと考えられる。

準絶滅危惧には、県内における生息地点の情報が少ない種、または環境省レッドリストに選定される種の中で県内に分布する種より 24 種を選定した。構成は、海浜性種から 1 種、低湿地の水際に生息する種から 1 種、里地から山地に生息する種から 22 種となっている。

情報不足に選定した 5 種は、過去に県内において記録がある種で現状が不明の種及び、分類学的に検討が求められる種を選定している。

最後に、今回の選定からは除外したが、最近の確認記録のあるもので注目すべき種について述べる。

カンムリケマイマイ *Aegista Kanmuriyamensis* に酷似する種が金沢市近郊の丘陵から確認されている。カンムリケマイマイは、福井県、岐阜県県境の山岳地帯の極めて限定された地域に分布するとされる種である。また、2005 年発行の環境省レッドデータブックでは、分類学的再検討を要する種とされ情報不足に選定されたが、2007 年の見直しにおいてはランク外となっている。石川県で確認された類似種の生息条件は不明であるが、これまでに知られているカンムリケマイマイの生息条件とは異なっている。

イボイボナメクジ *Granulilimax fuscicornis* と思われる種が金沢市の丘陵地から確認されている。イボイボナメクジは 1989 年に新種記載された種であるが、十分に研究が進んでおらず、分布の詳細が不明であることから、今回の選定からは除外した。ただし、原記載にいずれの産地でも複数個体が採集されることは困難とかかれているように、稀種であることは確実である。

4　付記

今回、陸産貝類のレッドリストの選定を高橋が担当したが、最近の生息情報の収集、標本の作成および同定においては、新潟水族館の野村卓之氏による多大な貢献があった。また種の選定と原稿のとりまとめにあたっても示唆を賜ったことを付記しておく。

（高橋　久）

新旧対応表

		前回						1
		絶滅 0	絶滅危惧Ⅰ類 0	絶滅危惧Ⅱ類 0	準絶滅危惧 1	情報不足 0	地域個体群 0	カテゴリー外 36
今回	絶滅 0							
	絶滅危惧Ⅰ類 1							クビキレガイモドキ
	絶滅危惧Ⅱ類 7							ヤマトクビキレガイ オオウスイロヘソカドガイ トノサマギセル ココロマイマイ オオミケマイマイ ハクサンマイマイ ミヤマヒダリマキマイマイ
	準絶滅危惧 24				ヘグラマイマイ※			イツマデガイ ナガオカモノアラガイ オオタキコギセル ナミコギセル コンボウギセル オクガタギセル ハゲギセル オオコウラナメクジ ヤマコウラナメクジ ヒラベッコウガイ クリイロベッコウ カズマキベッコウ キヌツヤベッコウ ヒメハリマキビ スジキビ オオウエキビ ヒメカサキビ エチゼンビロウドマイマイ ケハダビロウドマイマイ コシタカコベソマイマイ コベソマイマイ ヤマタカマイマイ タワラガイ
	情報不足 5							サツマクリイロカワザンショウ類の一種 ナガナタネガイ ミドリベッコウ ハクサンベッコウ ハクサンマイマイ
37	地域個体群 0							
	カテゴリー外 0							

※前回 その他の動物に分類